

## 第2回 野田市生物多様性のだ戦略市民会議

日時 令和7年12月2日（火）

午前10時から正午

場所 野田市役所4階 委員会室

及びリモート参加

### 会 議 次 第

1 開会

2 市長挨拶

3 議題

(1)報告1 みどりの愛護のつどい国土交通大臣表彰の授賞についての報告 【資料1】

(2)報告2 自然共生サイトの認定についての報告 【資料2】

(3)報告3 尾崎金島影響調査の内容・スケジュールについての報告 【資料3】

(4)報告4 ネイチャーゲームの開催についての報告 【資料4】

(5)協議事項1 意見シートでの各委員からのご意見について 【資料5】

4 その他（鳥獣対策について） 【資料6】

5 閉会

## 第 36 回「みどりの愛護」 功労者国土交通大臣表彰

## 市内の自然保護団体 2 団体が受賞

野田市で自然保護活動に取り組む 2 つの団体、「みどりのふるさとづくり実行委員会」と「三ツ堀里山自然園を育てる会」が、このたび「みどりの愛護」功労者として国土交通大臣表彰を受賞しました。

この表彰は、緑を守り育てる活動に顕著な功績があった民間の団体を称えるもので、緑化推進活動の模範となる取り組みに贈られます。

これに伴い、令和 7 年 6 月 7 日には松戸市の森のホール 21 で式典が執り行われました。

式典後には、隣接する 21 世紀の森と広場（光と風の広場）に移動し、受賞を記念した植樹が行われました。



左：三ツ堀里山自然園を育てる会 事務局 石川 祐一 氏

右：みどりのふるさとづくり実行委員会 副会長 林 元夫 氏

### 【みどりのふるさとづくり実行委員会の紹介】

みどりのふるさとづくり実行委員会は、野田市の緑化推進を目指して活動しています。

その前身は、野田市の人口が12万人に達したことを記念し、市民一人ひとりが植樹を行うことで緑化意識を高めようと、平成9年8月に発足した「12万本植樹事業実行委員会」です。

市民の協力により、平成12年4月には目標の12万本の植樹を達成しました。

その後、現在の名称に改称し、約25年間にわたり市内での緑を増やす活動を続けています。

(主な活動)

- ・苗木配布：年3回、花苗や苗木、球根の配布を実施しています。
- ・拠点植樹：植樹を実施しています。
- ・稲わら細工講習会：令和5年度から開催しており、稲わらを使って野田市の生物多様性のシンボルであるコウノトリや亀を作り、市民が自然と触れ合う機会を提供しています。

### 【三ツ堀里山自然園を育てる会の紹介】

「三ツ堀里山自然園を育てる会」は、平成4年4月から活動を開始した団体で、現在42名の会員が三ツ堀里山自然園の樹木の手入れ、除草、清掃、そして希少な動植物の保護活動に取り組んでいます。

また、野田市の豊かな自然に興味を持ってもらい、生態系の復活に尽力しています。

(主な活動)

- ・三ツ堀里山自然園の維持管理
- ・市の主催する「SDGsエコ作戦」の協力
  - 千葉県レッドデータブックで最重要保護生物に指定されているニホンアカガエルの産卵場所となる水路や沼の整備、外来種セイタカアワダチソウの駆除などを行っています。
  - 参加者には作業方法を丁寧に教えながら、楽しみながら自然に触れてもらう機会を提供しています。

## 江川地区が自然共生サイトに認定されました

令和7年9月16日、野田市江川地区が「自然共生サイト」として環境省より認定されました。これに伴い、令和7年9月30日に東京都千代田区の砂防会館で開催された「令和7年度自然共生サイト認定式」に出席しました。



写真左：環境省 成田審議官

写真中央：野田市 宇田川自然経済推進部長

写真右：株式会社野田自然共生ファーム江川事業所 永井所長

自然共生サイトとは、ネイチャーポジティブの実現に向けた取り組みとして、地域における生物の多様性の増進等に関する法律に基づき、企業の森や里地里山、都市の緑地など民間の取り組みにより生物多様性を増進する活動計画を国が認定する制度です。

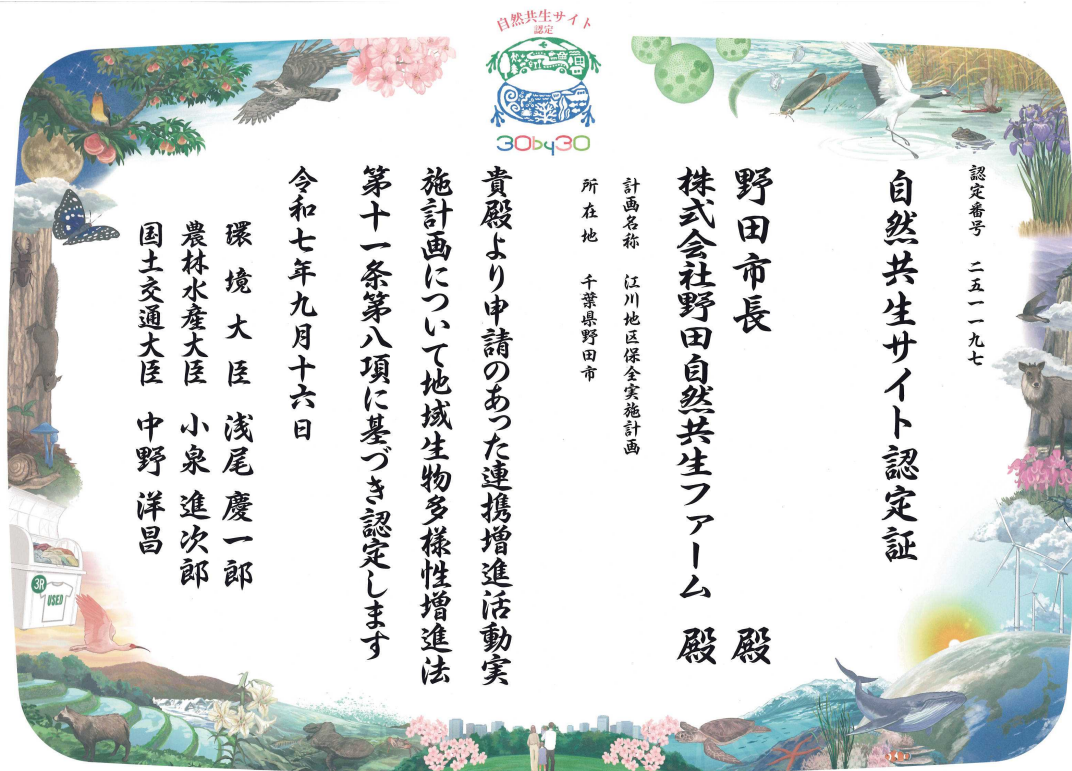
自然共生サイトには、2つの計画認定制度があり、企業等が作成する里地里

山の保全、希少種の保護といった生物多様性の維持・回復・創出に資する「連携活動実施計画」と、市町村がとりまとめ役として多様な主体と連携して行う活動計画である「連携増進活動実施計画」があります。

今回の野田市は、第3セクターである株式会社野田自然共生ファームとの連携や自然保護団体との連携、教育機関の学習の場としての連携等を実施しており、「連携増進活動実施計画」として認定を受けました。

また、自然共生サイトは「維持タイプ」「回復タイプ」「創出タイプ」の3つのタイプに分類されており、「維持タイプ」として認定を受けた場合には、今後、自然共生サイトのうち保護地域と重複しない区域を、OECM（Other Effective area-based Conservation Measures：保護地域以外で生物多様性保全に資する区域）として、国際データベースに登録することが予定されています。江川地区は、「維持タイプ」として認定を受けたため、国際データベースに登録される見込みです。

なお、自然共生サイト等の支援（金銭的・人的・技術的支援等）を希望する方とのマッチング（支援マッチング）を実施しており、自然共生サイトに認定されたことで、支援希望者とマッチングが可能となります。



## 尾崎金島地区影響調査について

第1回生物多様性のだ戦略市民会議で協議された「尾崎・金島地区影響調査」について、以下の内容でエヌエス環境（株）と契約を締結しました。

### ○調査の目的

生物多様性のだ戦略において貴重な谷津田の景観を持つ「尾崎・金島地区」を対象に、以下の点を考慮しながら環境調査を行います。

これにより、現状を把握し、重要箇所を選定することで、第2期生物多様性のだ戦略に基づいたビオトープ整備の基本方針を検討します。

（条件）

- ・ホタルの生息環境を保全する
- ・休耕田の保全管理を行う
- ・今後実施予定の下水道整備工事による環境への影響を考慮する

### ○業務の内容とスケジュール

#### (1) 環境調査と重要箇所の選定

1. 基盤環境調査（令和7年度）
  - ・ドローン空撮
  - ・現況調査
2. 重要種の把握と生息環境調査（令和7年度～令和9年度）
  - ・植物、陸生動物、水生動物別に調査を実施
3. 重要生物の個別調査（令和7年度～令和9年度）
  - ・上記調査の結果に基づいて、重要生物の個別調査を実施

#### (2) ビオトープ整備方針の検討（令和8年度～令和9年度）

1. 整備目標の設定
2. 整備課題の整理
3. 整備基本方針の設定

(3) 地域住民向け説明会への対応（令和 8 年度）

(4) 報告書の作成（令和 9 年度）

(1)～(3)の調査結果をまとめた報告書を作成

## ・第 1 回生物多様性のだ戦略市民会議の意見シートの回答

### 委員

ご意見：今後の構想について計画策定が必要。

回 答：ご指摘の通り、本調査で得られた現況把握や重要箇所の選定結果を基に、具体的なビオトープ整備の計画を策定することが不可欠であると認識しております。

今後の進め方としては、調査結果がまとまる令和 9 年度以降に、地域住民の皆様や関係団体のご意見も伺いながら、第 2 期生物多様性のだ戦略に沿った具体的な整備計画を策定する方針です。

この計画策定については、以下の点を重視して進めてまいりたいと考えております。

- ・ホタルの生息環境を最大限に保全するための詳細な整備手法
- ・休耕田の多目的な活用方法
- ・下水道整備事業との連携による、環境影響の最小化

### 委員

ご意見：調査を重ねて生物多様性の観点で重点地域とその周辺をゾーニングする必要があるのではないかと考えています。

回 答：今回の調査は、まさにその第一歩となるものです。「尾崎・金島地区」の現状を詳細に把握し、生態系にとって特に重要な箇所を特定することから始めます。その後、調査結果を基に、生物多様性の保全と活用を両立させるためのゾーニング（区域分け）を検討していく方針です。

将来的に、ご意見のように重点地域を明確に定め、その周辺を含めたゾーニングを行うことで、より効果的な保全活動やビオトープ整備につながると考えております。

尾崎金島地区環境調査業務委託

業務計画書

令和 7 年 8 月

エヌエス環境株式会社

# 目 次

	頁
第1章 業務概要 .....	1
1-1 業務の目的 .....	1
1-2 業務概要 .....	1
第2章 業務内容 .....	3
2-1 計画準備 .....	3
2-2 環境調査による現況調査及び重要箇所の選定 .....	3
2-2-1 基盤環境調査（令和7年度） .....	3
2-2-2 重要種の把握と生息環境調査（令和7年度～令和9年度） .....	3
2-2-3 重要生物の生息状況を踏まえた個別調査（令和7年度～令和9年度） .....	4
2-3 ビオトープ整備方針の検討（令和8年度～令和9年度） .....	4
2-4 地域住民に向けた説明会への対応（令和8年度） .....	4
2-5 報告書の作成（令和9年度） .....	4
第3章 業務のスケジュール .....	5
第4章 業務の実施体制 .....	6
第5章 打合せ .....	6
第6章 成果品等 .....	7
第7章 業務の連絡体制 .....	8
第8章 その他 .....	9
8-1 安全管理 .....	9
8-2 品質管理・環境配慮・情報管理 .....	11

## 第1章 業務概要

### 1-1 業務の目的

本業務は、生物多様性のだ戦略において貴重な谷津田景観を有している「尾崎・金島地区」において、以下の条件に考慮しつつ環境調査による現況把握及び重要箇所選定を行い、第2期生物多様性のだ戦略に則したビオトープ整備の基本方針を検討する。

#### 【条件】

- ▶ホタルの生息する谷津田環境を保全する
- ▶休耕田の保全管理を行う
- ▶今後該当区域で実施する下水道工事事業による環境影響を考慮する

### 1-2 業務概要

委 託 名 : 尾崎金島地区環境調査業務委託

発 注 者 : 野田市長 鈴木 有

委 託 箇 所 : 野田市尾崎字金島地先 図 1-1参照

業務の内容 : 表 1-1参照

業務期間 : 令和7年8月19日 ~ 令和10年3月31日

表 1-1 業務の内容

項目		数量	
(1) 環境調査による現況調査及び重要箇所の選定	1. 基盤環境調査 (令和7年)	ドローン空撮	1回
		現況調査	1回
	2. 重要種の把握と生息環境調査 (令和7年度～令和9年度)	植物相	3回 (春、夏、秋)
		陸生動物	3回 (春、晩夏～初秋、冬)
		水生動物	2回 (春、秋)
3. 重要生物の生息状況を踏まえた個別調査 (令和7年度～令和9年度)		1式	
(2) ビオトープ整備方針の検討 (令和8年度～令和9年度)	1. 整備目標の設定	1式	
	2. 基本方針の整備課題の整理	1式	
	3. 整備基本方針の設定	1式	
(3) 地域住民に向けた説明会への対応(令和8年度)		1式	
(4) 報告書の作成(令和9年度)		1式	
(5) 打合せ		1式 (計5回)	

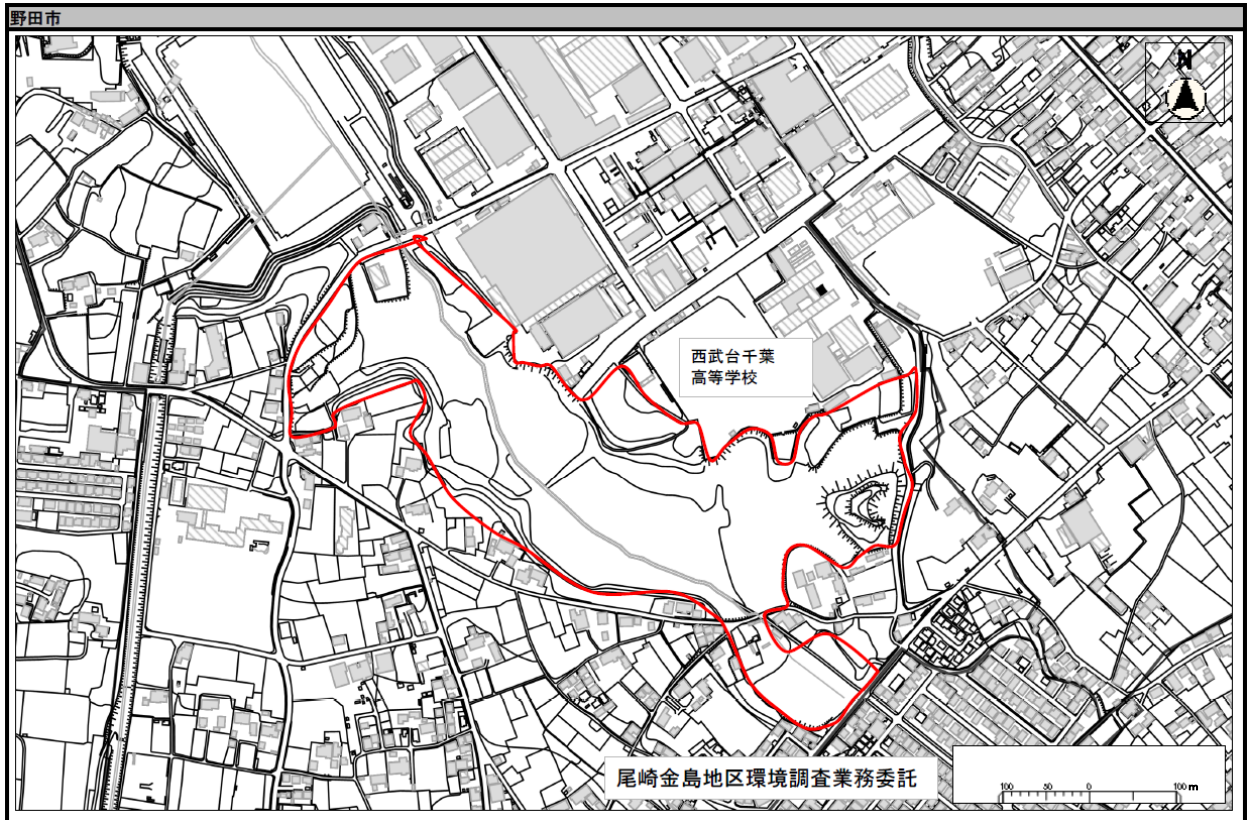


図 1-1 委託箇所

## 第2章 業務内容

### 2-1 計画準備

業務内容、実施体制、業務のスケジュール等を整理した業務計画書（業務の履行計画書）を作成する。

### 2-2 環境調査による現況調査及び重要箇所の選定

#### 2-2-1 基盤環境調査（令和7年度）

委託箇所の基本的な環境（地形的特徴、植生等）を把握するため、ドローン空撮及び現況調査を行う。この調査結果を踏まえて現地調査計画書を作成する。

表 2-1 ドローン空撮の使用機材

機材	備考
ドローン	詳細未定
カメラ	詳細未定

#### 2-2-2 重要種の把握と生息環境調査（令和7年度～令和9年度）

生物相（植物相、陸生動物、水生動物）の調査を実施し、重要種及びその生息環境を把握する。生物相の調査内容を表 2-2、主な使用機材・道具を表 2-3に示す。

表 2-2 生物相の調査内容（案）

調査項目（調査回数）		調査時期				調査方法
		春	夏	秋	冬	
植物相（3回）		●	●	●	-	任意観察
陸生動物（3回）	哺乳類	●	● (晩夏～初秋)		●	任意観察 無人カメラ(約1ヶ月設置)
	鳥類					任意観察
	両生類・爬虫類				-	任意採集
	昆虫類				-	任意採集
水生動物（2回）	魚類	●	-	●	-	任意採集
	底生動物 (昆虫類・甲殻類・貝類)					任意採集

※調査内容は基盤環境調査の結果を受けて変更する可能性がある。

表 2-3 生物相の調査の主な使用機材・道具

調査項目		主な使用機材・道具
植物相		ルーペ
陸生動物	哺乳類	動体検知式無人カメラ
	鳥類	双眼鏡、望遠鏡、望遠カメラ
	両生類・爬虫類	タモ網
	昆虫類	捕虫網
水生動物	魚類、底生動物(昆虫類・甲殻類・貝類)	タモ網、サデ網、カゴ罟

### 2-2-3 重要生物の生息状況を踏まえた個別調査（令和7年度～令和9年度）

2-2-2 に基づき、重要生物を選定し、その生息状況を踏まえた個別調査を実施する。

### 2-3 ビオトープ整備方針の検討（令和8年度～令和9年度）

2-2 の結果に基づき、ビオトープの整備目標の設定、基本方針の整備課題の整理、整備基本方針の設定を行う。

### 2-4 地域住民に向けた説明会への対応（令和8年度）

ビオトープ整備を円滑に進めるため、ビオトープ整備の目的等を地域住民へ説明する。

### 2-5 報告書の作成（令和9年度）

上記の 2-2 、2-3 、2-4 をまとめた報告書を作成する。

### 第3章 業務のスケジュール

業務の履行計画を図 3-1に示す。

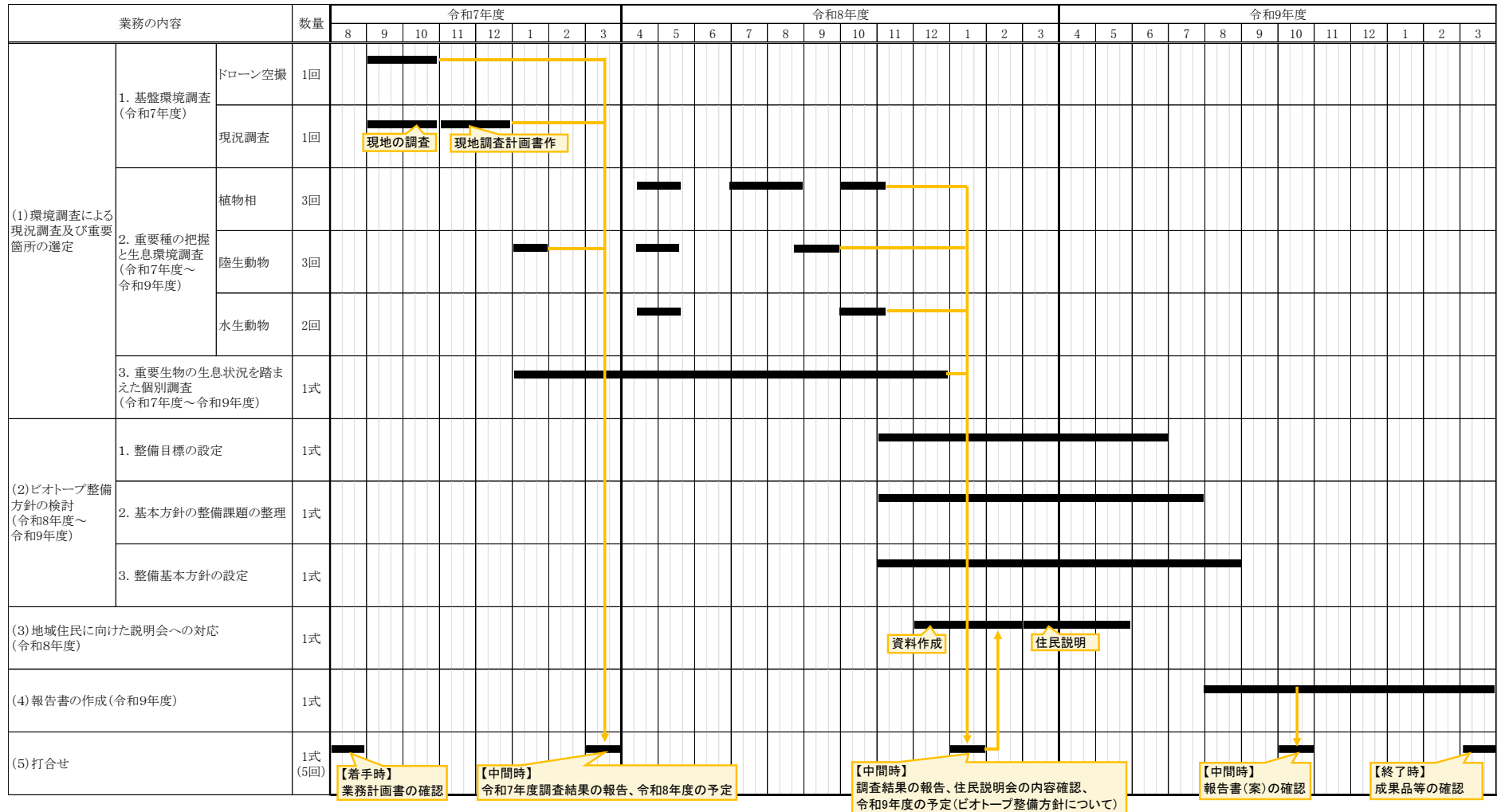


図 3-1 業務の履行計画

## 第6章 成果品等

業務の成果品等を以下に示す。

- |   |                    |      |
|---|--------------------|------|
| ① | 調査報告書（簡易製本）        | : 2部 |
| ② | 調査報告書の電子データ（CD-R等） | : 1式 |
| ③ | その他（発注者との協議による）    | : 1式 |

## ネイチャーゲームの開催について

市政施行75周年記念事業の一環として「ネイチャーゲーム」を開催しました。

### 1. 目的

未来を担う子供たちが、「第2期生物多様性の戦略」に掲げられている4つの基本方針「まもる」「いかす」「たのしむ」「つなぐ」を体感し、生物多様性の重要性を理解したうえで、行動するきっかけを得ることを目的とする。

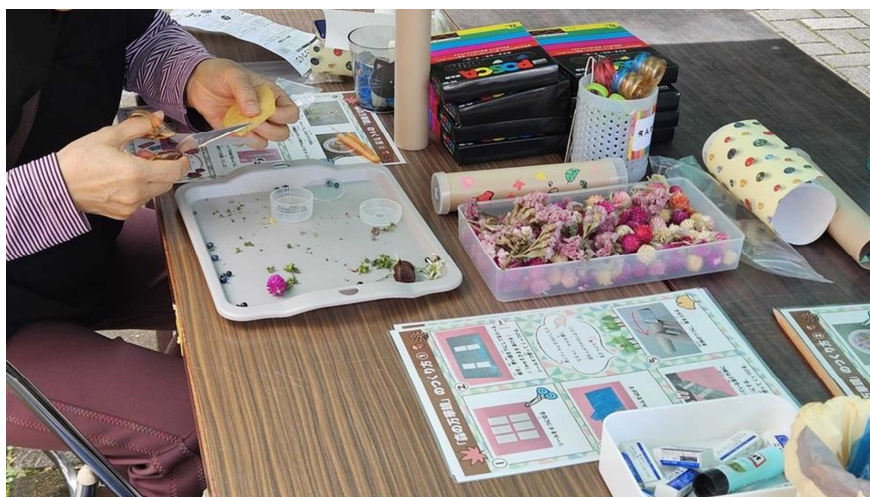
### 2. 実施内容

自然とふれあい楽しむことを通じて生物多様性への関心を高めることをねらいとした体験型プログラムを東京理科大学「ふれあいの杜（中央の杜）」をフィールドとして、「宝探し」や「フィールドパターンゲーム」等を用いた内容で構成される。

（フィールドパターンゲーム）

小さなものから、大きなものまで、自然界はいろいろな形や模様から成り立っています。一見、乱雑に見える自然の中から、いくつかの図形を手がかりに、それに類似した形を 探し出すことで、自然から発せられる視覚的情報に気づくことができます。

フィールドパターンゲームは、自然環境の違いによって見られる生きものの種類や特徴の「パターン（分布や生息環境）」に着目し、参加者が実際に自然の中を歩きながら観察・分類・発見を行う体験型環境学習プログラムです。



### 3. 開催結果

会場：東京理科大学 ふれあいの杜（中央の杜）の一部

開催日：10月18日、19日（産業祭と同時開催にて実施）

対象：地域の子どもたちおよび保護者を中心とした来場者

企画運営：生物多様性コーディネーター及びみどりと水のまちづくり課職員

参加者：18日49名 19日26名（荒天のため午前中で終了）

合計75名

### 4. 期待される効果

子どもたちが自然の中で遊びながら学ぶことで、単なる知識の習得にとどまらず、身近な自然や生きものへの親しみを持つことができる。また、「まもる」「いかす」「たのしむ」「つなぐ」といった多様な視点で生物多様性を捉える契機となり、将来的な環境保全の担い手としての意識醸成が期待される。

委員名	ご意見	整理番号
委員	<p>委員からの定量的な市民の意識調査によって、市によって進められてきたコウノトリ野生復帰事業が市民意識の向上として現われたものとして評価したい。多様な生命を尊重する意識が具体的な行動として現われることが重要です。その具体的事例としては、以下の意見を提出します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元の自然が好き、標本でなく生きている生きものが好き、という素朴な感情が育っていれば、生物多様性とはなにか、などと説明できなくてもよいのだと思います。</li> <li>・尾崎金島におけるビオトープ整備の予算がつくことを期待します。</li> <li>・江戸川河川事務所の取り組みとして、江戸川の水源地上流域の緑地、湿地としての位置づけを明確にしてほしいです。</li> </ul>	
委員	報告書なので意見はありませんが、今後も今回のアンケート調査を使った分析等を報告できる機会をいただけるとありがたいです。引き続きよろしく願いいたします。	
委員	意識が若干高くなったきたのが良い。2年毎に調査実施したほうがよい。	
委員	先生のお言葉にもあります様に住んでいる地域や身のまわりの自然に関心を持つことが大事だと思うし、いかにして生物の生きる環境を維持するか。	
委員	意見なし (貴重なコウノトリの野生復帰には肯定的な意見が多く、このまま進めていくべきである。)	①
委員	これだけ認知度が上がったにも関わらず、「このとりの里」の利用者が伸びない、目撃例も少なくまだ関心が薄い。しかし肯定的な意見が多く、関心を高める取り組みを考えていきたい。	①
委員	<p>毎年のようにコウノトリに新たな命が生まれ巣立つようになると、コウノトリの繁殖と定着を期待する市民が増え、いつの間にか生物多様性を理解する事業としての代表的な取り組みとして認知されるようになりました。</p> <p>クラウドファンディングによる営巣用の支柱の建設にも成功し、理科大でも独自に理窓会記念自然公園に営巣用の支柱を設けられたことは素晴らしいと思います。</p> <p>今後も機会あるごとに、クラウドファンディングなどを活用し、コウノトリがよりいっそう市民の身近な存在になるよう願っています。</p>	①
委員	<p>環境問題や生物多様性という言葉はニュース等で度々取り上げられているので一般的な言葉として認知度があるだけで、また、地球温暖化や農作物への被害それが物価の高騰等自身の生活に影響を及ぼしていることで環境に対する意識が高まっているのだと思う。アンケート結果から読み取れることは野田市で生物多様性に取り組んでいることへの認知度は低く、実際にコウノトリの郷に足を運んだりしている市民もほとんどいない。このことから野田市の市策の認知度は現時点では低くこれから市民の理解と協力を得るため認知度を上げていくことが必須であり、そのための方法も考えいくことが課題だと思う。また、コウノトリはシンボルとしては良いと思うが、一度絶滅した種であり、外国から持ってきたものを飼育繁殖させているのでそれだけを前面に押し出すことには違和感を感じる。今現在生息している生物の保全こそが一番大事で特に鳥は移動ができる生物なので環境が悪化すれば私達の町からいなくなってしまう。これらを踏まえもっと広い視野で考えていくべきではないでしょうか。</p>	①

①コウノトリ関係の説明

②有害鳥獣対策

③学校への取り組み

報告2 45事業の進捗状況について へのご意見

委員名	ご意見	市の回答	整理番号
委員	45の事業なかなか覚えきれませんね。関連する事業をグルーピングして、関連要素を可視化していただけるとよいと思います。	生物多様性を「まもる」「いかす」「たのしむ」「つなぐ」の4つの指標を軸にグラフ化など可視化の検討を行いたいと考えます。	
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進行管理が一覧表になっていて、わかりやすい。ただ、進行状況の評価？（○、△等）もあるとわかりやすいように思う。</li> <li>・アライグマ等の外来種の喫緊の課題は市民に広く周知する取り組みがもっと必要ではないか。</li> </ul> <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コウノトリの野外繁殖は各地に広がっているの、引き続き関東地域では野田市が中心的な役割をはたしてほしい（情報提供、可能な範囲内のサポート）。</li> <li>・意識啓発では「こうのとり」を活用できるような取り組みを増やしてほしい（水田型市民農園・イベントについても許容できる範囲内とはなるが市民の参加を増やす周知も必要）。①</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進行表については、評価の基準の選択肢を増やすことを検討いたします。</li> <li>・近年増加している有害鳥獣や外来種への対応については市民の関心も高く、効果的なPR方法を模索しているところ。ぜひ委員の皆様からもご意見をいただきましたら幸いです。</li> <li>・コウノトリの取り組みについて今後も関係団体と連携していくとともに、情報発信にも力を入れていきます。8月17日に実施したこうのとりフェスではこうのとりを初めて訪れたという親子連れに多く参加いただいたため、今後もイベントや講座を企画していきたいと考えています。</li> </ul>	<p>①</p> <p>②</p>
委員	生物多様性、自然環境の異常な変化（高い気温など）で地球単位で見ても対応が難しくなっていることが心配。		
委員	意見なし (次回市民会議での発表に期待しています。)	—	
委員	清水公園でも外来種の影響があり、その対応に苦慮しています。広範囲な活動ですが、それぞれが地道に取り組んでいくほかないと思います。	現時点での外来種や有害鳥獣の駆除の状況については、市民会議でぜひ情報共有をいただけますと幸いです。	②

①コウノトリ関係の説明

②有害鳥獣対策

③学校への取り組み

協議事項1 社会環境調査結果報告 へのご意見

委員名	ご意見	市の回答	整理番号
委員	第一回生物多様性のだ戦略市民会議の資料を野田市のhomepageに掲載していただき、会議参加者からの意見を募る際に参照できるようにしていただくとありがたいです。紙ベースの資料では、見つけにくくなり、いずれ意識のそとに追いやられてしまいます。	市ホームページの生物多様性の紹介ページでリンクをはるなどを検討いたします。	
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校ごと（難しい場合はエリアごと）の分析ができると、学校・エリアごとに環境教育で力を入れるべき点が見えてくるのではないかと。</li> <li>・学校ごとの環境教育の現状もわかると、回答結果の内容が理解しやすくなっていくと思われる。</li> <li>・よく遊んでいる・行く場所に「公園」が多く選ばれていることが報告されていたが、ここでは「公園」がどのようなタイプの公園なのか（規模も含め）、もう少しタイプを分けて聞くことよい。</li> <li>・一部質問文に問題があるので次回調査では修正した方がよい（1つの質問で2つのことを聞いている）。</li> <li>・あと小学校の協力を得て実施していると思われるが、児童の回答率が約60%であり、回答率向上の工夫が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次回の調査に生かせるよう、分析方法（エリアごとの分析）の追加や設問内容の深化を検討いたします。</li> <li>・令和6年度から学校ごとに配る紙媒体ではなく、Googleフォームを利用したアンケート調査を採用しています。作業効率化や予算の削減を行った一方で、回収率が課題となっています。次回調査は令和8年度を予定していますが、紙媒体かウェブでの調査とするかを検討しています。</li> </ul>	
委員	年（上半期、下半期毎）に進捗状況の報告が必要である。	45事業の個別の進捗については、進捗状況に合わせて都度、報告をさせていただきます。	
委員	期のまとめ報告をイベントとしてノア店の時計の広場を活用することでより多くの市民に知っていただけると感じています。	ご協力をいただきありがとうございます。ぜひ定期的に掲示をさせていただき、広報をできればと考えております。	
委員	生物多様性について、取り組みの必要性を今まで以上に市民・学校等を通じて告知をしていき認知度を高めることが重要であると思う。	<p>いただいたご意見を踏まえ、小中学校での出前講座の開催・周知、このとりの里観察施設やガイドの周知、学習教材の資料提供などを進めてまいります。</p> <p>公民館事業の一環として生物多様性に関する講座や休日に開催される自然保護団体の自然観察会の開催支援も行っていますが、多くの方に参加いただけるよう、広く周知していきたいと考えております。</p> <p>今後の講座・イベント実施については、別紙（作成中）のとおりです。</p>	③
委員	野田市はまだまだ自然が残っているとわかりました。野田市の鳥や木の見直しを考えているのでしょうか？そうであれば時期尚早と感じます。		
委員	①積極的な広報活動の教育現場での取り組み、②教育現場での取り組みの2点は、今後も重要な課題であると考えます。		
委員	現在、小中学校では自然観察のための野外活動が盛んになりました。生物多様性という言葉が市民に浸透し始めたころは、昆虫類も採集してはいけないとの動物愛護の考え方が独り歩きして、調査研究のために昆虫類を捕獲することに気まずい思いをすることがありましたが、現在はそのようなことは少なくなり、先生方が生物多様性についての認識を深め、児童生徒にきめ細かく指導されている表れだと感じています。（10ページ② 動物や植物を採らずに観察するだけにする。令和2年と令和6年の比較 72.9%⇒21.43%）		
委員	社会環境調査は小学生と保護者を対象としたアンケートということだが、第一回の会議でも意見で述べたが、野田市の子供向けの自然や環境に対する教育機会が少ない。以前より強化されてきているという事務局からのご回答でしたが、現小学生を持っている保護者の方（宮崎小、南部小、みずき小）に直接聞いたところ校外学習でコウノトリの郷には行っていないとのことでした。また、個人的にも行ったことはないとの返答で自然に対する関心は薄くとても残念な状況でした。近年のアウトドアブームで他県へ足を運び自然に触れる機会はあるとしても、自分達の住む野田市の自然についての知識も興味もないのは残念なことです。公民館の講座も私自身以前参加したことがあるが平日の開催で現役世代には参加が難しい。現役世代や親子での参加しやすい休日に開催してみたらどうでしょうか？これからの地球環境を担っていく若い世代の理解、協力こそが一番大事でそこに目を向けるべきではないでしょうか。今後、自分達の住む町の自然や生物に関心を持ってもらうための方法を考えていくべきだと思う。		

①コウノトリ関係の説明

②有害鳥獣対策

③学校への取り組み

協議事項2 尾崎金島影響調査内容 へのご意見

委員名	ご意見	市の回答	整理番号
会長	隣接する西武台千葉高校の生徒さんが参加した活動が始まろうとしているのはよいです。理科大の理窓公園で活動しているレンジャーさんが、サークル活動の1つとして、尾崎金山地区の活動に参加してくれると良いです。大学生と高校生の共同活動につながるとよいです。新保委員が紹介された地域が生き生きしていた当時のことを懐古趣味でなく、高校生が新たな関心を持って取り組んでもらえると良いです。期待しています。	情報公開やお声がけを行っていきたいと考えていますが、Risoレンジャーの参加は現状難しいと考えています。ほかのサークルにも声掛けをしていまいます。	
委員	ビオトープを維持させるためにも継続的に活動できる主体の存在が必要（高校含め）。	住民説明会の実施や該当地区で活動する自然保護団体や近隣の学校への丁寧な説明を行っていきたいと考えています。	
委員	今後の構想について計画策定が必要。	協議事項2の中で説明、回答を行います。	
委員	調査を重ねて生物多様性の観点での重点地域とその周辺地域をゾーニングする必要があるのではと思っています。	協議事項2の中で説明、回答を行います。	
委員	高校生、大学生が地域の自然に関心を持ってくれることは、当戦略会議にとり有難い。	協議事項2の中で説明、回答を行います。	③
委員	意見なし (休耕田をビオトープにする地元の意見は素晴らしいと思います。調査に3年を計画されていますが、もっと長期になる可能性もある為、精査が必要と思います。)	協議事項2の中で説明、回答を行います。	

①コウノトリ関係の説明

②有害鳥獣対策

③学校への取り組み

その他のご意見

委員名	ご意見	市の回答	整理番号
委員	意見を集めるのは、会議終了後できるだけ近い時期の方がいいのではないかと。	意見シートの送付が遅くなり申し訳ございません。次回は近い時期で送付を行うよう対処いたします。	
委員	今後の会議のテーマに市が進めてきた拠点（市民の森、こうのとりの里、小船橋水辺公園ほか）について検証したらどうか。	貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございます。 第2期生物多様性の戦略に基づき進められてきた各調査拠点は、地域の自然環境の保全と再生、市民の理解促進において重要な役割を果たしており、その成果や課題を整理・検証することは、今後の施策展開にも資するものと思っておりますが、会議テーマとして取り上げることについては、今後検討させていただきたく存じます。	
委員	意見なし (素晴らしい会議であると感じます。)		
委員	関宿落堀ビオトープについて（別紙のとおり）		
委員	今後取り上げる議題については決まっているのでしょうか？重複しますが、市民、特に若い世代の方達の理解、関心を得るための方法も考えてほしいと思います。例えば、他の市では環境を学ぶことができる施設や野鳥観察舎があったりしますが野田市内には残念ながらありません。そのような施設を作ってバードウォッチング教室や双眼鏡の貸し出し等気軽に自然や生物を観察できるような環境を整えれば生物多様性に関心を持つ若い世代が増えると思います。野田市には今でも100種類近くの野鳥がいます。しかも自分が住んでるすぐ近くで懸命に生きてることを是非知ってもらいたいです。	貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございます。 野田市には、多くの野鳥が生息しており、市民の皆様の身近な場所で豊かな自然が息づいています。この素晴らしい環境を若い世代の方々にもっと知ってもらい、生物多様性への関心を深めてもらうことは、本市の重要な課題であると認識しています。 ご意見をいただいた、新たな施設の建設には時間と費用がかかるため、まずは既存の公共施設を最大限に活用し、図書館や公民館に、野鳥図鑑や関連書籍のコーナーを設けたり、イベント情報の掲示を検討してまいります。 また、野田市には多くの野鳥が生息しているというご指摘の通り、私たちの身近な自然環境には多様な生きものが暮らしており、豊かな自然を市民の皆さまに実感していただけるよう、自然観察会や環境教育プログラムの充実を検討してまいります。	
委員	生物多様性について、取り組みの必要性を今まで以上に市民・学校等を通じて告知をしていき認知度を高めることが重要であると思う。	引き続き出前講座や関連イベントの実施を行ってまいります。より効果的な取り組みができるよう委員の皆様からご意見をいただきたいと思いますと考えております。	
委員	現在の方式で特に問題はないと思います。強いて言えばレベルですが、どこかのタイミングで、相互理解・情報交換のためにざっくばらんにやり取りできる場があっても良いかもしれませんね。	内容に応じて個別にご意見をいただくなども検討いたします。	

①コウノトリ関係の説明

②有害鳥獣対策

③学校への取り組み

## その他 鳥獣対策について

### 1. 野田市の現状

これまで、野田市の獣害対策は、農業被害に関わるものは農政課、それ以外のものはみどりと水のまちづくり課で対応しておりましたが、近年アライグマ、イノシシの捕獲数が急増していることから、令和6年10月1日にみどりと水のまちづくり課内に鳥獣対策係を新設し、総合的に対応しています。

市は、野田市鳥獣被害防止計画を策定し、農業被害等の対策すべき対象鳥獣の種類を定め、対応しています。また、第2期生物多様性野田戦略における施策のテーマ2「自然環境の質をまもる」2-②で外来種による影響の抑制もうたわれていることから、アライグマをはじめとした特定外来生物の対策を継続して実施しています。

### 2. 駆除数の推移

アライグマ、ハクビシンについては、市民に箱罠を貸与し、捕獲を実施しています。一方、イノシシについては、猟友会の協力のもと、くくり罠、箱罠を設置し捕獲しています。

全体として捕獲数が増加傾向にあることから、市は箱罠等を増やし対応を強化している状況です。

また、カラスをはじめとする鳥類については、猟友会が猟銃を用いた捕獲を実施していますが、こちらの捕獲数はほぼ横ばいで推移しています。

駆除数（獣類）

（単位：頭）

	アライグマ	ハクビシン	イノシシ	計
H30年度	64	8	0	72
R1年度	78	7	1	86
R2年度	159	17	3	179
R3年度	159	18	1	178
R4年度	198	17	2	217
R5年度	192	14	9	215
R6年度	318	15	34	367
R7年度	365	27	17	409

11月18日現在

駆除数（鳥類）

（単位：羽）

	ハシブト ガラス	ハシボソ ガラス	ドバト	ヒヨドリ	計
H30 年度	122	83	87	53	345
R1 年度	88	65	100	61	314
R2 年度	82	47	92	108	329
R3 年度	86	34	112	48	280
R4 年度	92	57	72	77	298
R5 年度	79	47	44	75	245
R6 年度	54	31	76	110	271

### 3. 千葉県鳥獣被害対策体制整備支援事業による鳥獣対策 GIS 分析結果

この事業は、千葉県が市町村に対し、鳥獣被害を効果的に低減するための体制整備を支援するもので、被害状況の科学的な分析や対策を担う人材の育成、確保、広域的連携の強化などを推進することを目的としています。この支援に基づき、捕獲データや地理的情報を用いた分析を実施しました。

#### (1) イノシシ捕獲地点（2021 年度～2024 年度）

- ・市内でのイノシシ捕獲頭数が増加しています。
- ・市南東部（瀬戸、三ツ堀周辺）および中部江戸川隣接地域（東宝珠花）でメス個体の捕獲が増加傾向にあります。
- ・危険個体が生息する地域（目吹、木野崎）で設置ワナ数が不足しています。
- ・市南東部を起点として、イノシシの生息地が北部へと拡大しています。

#### (2) 情報受付表からのデータ整理

- ・イノシシ出没情報は市南部に集中傾向が見られます。
- ・日中に出没する群れの日撃情報が複数あります
- ・市民の日撃情報から、危険個体となりえる個体の存在が示唆されている。捕獲の優先度は高いと考えられます。

#### (3) 猟友会員数の将来予測

- ・県内の他市町村に比べて若手が多いが、10 年後には半減予測されています。

特に関宿地区や市南部で在住会員が少ない状況です。

- ・体制整備に向け、捕獲従事者および協力者（地元住民）を発掘し、人材育成することが望まれます。

#### (4) アライグマ捕獲頭数

- ・市内全域において増加傾向にあります。
- ・市内3ヵ所周辺（関宿台町、木間ヶ瀬、瀬戸）に定着コアエリアがあります。
- ・2016年度の定着エリア周辺（船形、三ヶ尾）を発端として、市内全域に定着エリアが拡大しています。市役所周辺地域はオスだけの分布（遅滞相地域）であると考えられます。

#### (5) アライグマ CPUE（捕獲努力量）

- ・関宿台町および木間ヶ瀬ではワナが足りている状況です。
- ・生息数に対してワナが不足している地域があります。（小山など）
- ・CPUE 単位で捕獲状況を分析すると、関宿台町および木間ヶ瀬に比べ、小山での捕獲実績は10倍になります。

#### (6) 対策提案

- ・市南東部での対策体制整備および住民主体の人材づくりが必要です。
- ・市南東部（目吹周辺）でのアライグマ集中捕獲が提案されています。

### 4. 今後の課題

- ・対象獣の増加により、捕獲ニーズが増加しており、箱罠の増設が必要です。
- ・捕獲後の運搬は、市職員が担当し、処分は委託によるものとしていますが、いずれも人手と費用を要します。
- ・猟友会の従事者の高齢化が進んでいることから、担い手の育成と確保が問題となっている。